

取組の名称 児童会主体の「全校いじめ根絶集会」の取組

12月6日（火）始業前の時間

取組の概要 場所：糠内小学校スマイルプレールーム

【ねらい】

「全校いじめ根絶集会」において、児童がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図る。

【概要】

児童会書記局が中心となり、いじめがない学校にするために、思いやりや相手のよい所を見つけることが大切だということを全員で共有した。また、友達の思いやりのある行動をカードに書き、「思いやりツリー」を作った。最後に校長の講話を聞き、自分たちの考えを深めた。

【児童の感想】

友達の優しい行動を思い出したら、友達のよいところが分かったので、もっと仲よくしたいと思った。



【「全校いじめ根絶集会」の様子】



【校長の講話の様子】

成 果 「全校いじめ根絶集会」を通して、児童がいじめを正しく認識するとともに、友達のよさを認め、互いを大切にしながら生活していこうとする意識が高まり、いじめを生まない風土が醸成された。

取組の名称 児童がいじめについて主体的に考え、議論する取組

12月1日（木）5校時

取組の概要 場所：古舞小学校各教室

【ねらい】

自分自身や相手の心情を大切にすることについて考える活動を通して、いじめを許さない心情や態度の育成を図る。

【概要】

いじめに係る絵本を題材とし、全学級でテーマごとに話し合った。積極的に意見交換をしたり、ワークシートを用いて自らの考えを整理したりし、それぞれの意見を学級全体で共有した。

【児童の感想】

いのちの大切さを感じることができ、相手を思いやる気持ちが大切だと考えた。自分を支えてくれる家族・友達への感謝の思いをもつことができた。



【中学年の学習の様子】



【低学年の学習の様子】

成 果 発達段階に応じ「自分や相手の心情を考える」ことの学びを深めることができた。また、児童の自他を大切にすることを育むことにより、いじめ根絶に向けて、いじめは絶対許さないという意識を高めることができた。

幕別町立明倫小学校

校長名 河 井 義 徳 全校生徒数8名

取組の名称 児童会主体の「パワフルミーティング」

通年

取組の概要 場所：明倫小学校ホール

【ねらい】

全校集会において、他者への理解を深める交流活動を通して、集団としての絆を育み、いじめを生まない風土の醸成を図る。

【概要】

月に一度、児童会が中心となり、全校児童が共に活動する「パワフルミーティング」を開催した。自分の好きなもの等を紹介したり、誕生日会やお楽しみ会を企画したりし、互いの理解を深め、友達と活動する楽しさを味わうことにより、他者を認め、よりよい人間関係を築く資質・能力を育むことを目指した。

【児童の感想】

みんなと過ごす楽しさを感じた。友達の好きなことを知り、たくさん話してみようと思った。



【開会の様子】



【パワフルミーティングの様子】

成 果 集団での活動を通して、相手のことを知ることや楽しく活動するために、相手のことを考え、思いやりをもって行動することの大切さに気付くなど、児童相互が絆を深め、いじめを未然に防ぐ風土を醸成することができた。

幕別町立途別小学校

校長 舘 英 樹 全校児童数27名

取組の名称 児童会主体の「絆づくりプロジェクト」

通年

取組の概要 場所：途別小学校2階廊下

【ねらい】

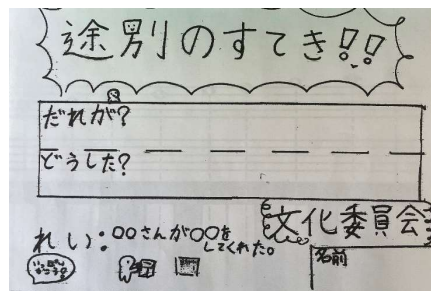
いじめを絶対にしない・させない・許さない学校にするため、自他共に認められ、安心して生活できる自己有用感と自己肯定感の醸成を図る。

【概要】

児童会が中心となり、全校児童が気付いた他者の頑張りやよい行いを「途別のすてき」として記入する取組を行った。記入された「途別のすてき」は、週に一度、昼の放送により発表し、全校で共有した。

【児童の感想】

自分のしたことが、皆の役に立っていると思うと嬉しいし、続けたいと思う。今度は自分が、相手のいいところを見つけて、発表してあげたいと思う。



【「途別のすてき」記入用紙】



【いいところ探しに取り組む様子】

成 果 年間を通して行ったことにより、互いに認め合う人間関係や絆づくりを推進することができたとともに、児童の自己有用感と自己肯定感の醸成を図ることができた。

取組の名称 児童会全体で取り組むやさしさの輪

通年

取組の概要 白人小学校校内

【ねらい】

全校の優しさの輪が広がるような活動を通して、お互いを知り、様々な思いや考えを受け止めることの重要性について理解を深める。

【概要】

児童会事務局が中心となり、毎朝、「あいさつ運動」を実施するとともに、児童会便りで気持ちのよい挨拶について紹介した。

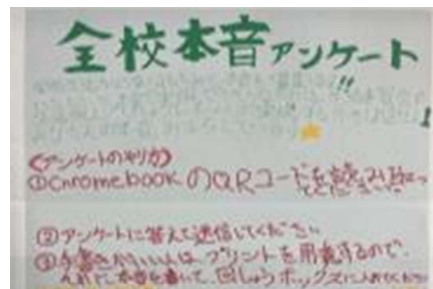
また、生活委員会が中心となり、Google Forms を活用した「本音アンケート」を実施し、安心できる学校づくりについて、児童が意見を出し合った。

【児童の感想】

みんなが安心して生活するために、廊下を走らない、異学年の人と話すなど、様々なことができると思った。



【あいさつ運動の様子】



【「本音アンケート」のちらし】

成 果

児童がアイデアを出し合い、やさしさの輪の活動が広がることにより、相手のことを考えた行動が増えるなど、他者を大切にしようとする姿が見られ、いじめ根絶に向けた思いを深めることができた。

取組の名称 児童会主体のコミュニケーションを大切にする取組

通年

取組の概要 玄関前・各教室、体育館

【ねらい】

「あいさつ運動」や「南っ子祭り」等の異学年交流を通して、児童同士、児童と教師の円滑なコミュニケーションを図り、悩み等を伝え合える人間関係を構築する。

【概要】

児童会書記局が中心となり、「あいさつ運動」を玄関前で行った。書記局が手本となり、全校児童に大きな声で挨拶した。

また、「南っ子祭り」を開催し、各学年がお店を開くことで、他学年児童との積極的なコミュニケーションを図った。

【児童の感想】

クラスメイトを思いやり、言葉や挨拶を大切に生活していきたい。



【あいさつ運動の様子】



【南っ子祭りの様子】

成 果

取組により、学年に関わらず仲よく遊ぶ姿が多く見られ、児童相互の望ましい人間関係の構築につなげることができた。

取組の名称 児童会主体の「ステキの木」の取組

通年

取組の概要 場所：札内北小学校玄関前

【ねらい】

他者に親切にされたことやよさを伝え合うことを通して、優しくする態度や思いやりの心の育成を図る。

【概要】

児童会書記局が中心となり、他者のよい行い等を募集し、玄関前に設置した「ステキの木」に貼り付けた。記入用紙と書いた他者のよい行い等を投函する「ステキBOX」を廊下に設置することで、いつでも記入することができるようにした。

【児童の感想】

親切やよさを見つけて書くことも、書かれた紙を見ることも、一人一人が思いやりをもって行動することにつながっていた。この活動を今後も続けていきたい。



【ステキの木】



【ステキBOX】

成 果 「ステキの木」を全校児童が見ることにより、他者を認め、相手のことを考えた行動が多く見られるようになり、児童の優しくする態度や思いやりの心を育成することができた。

取組の名称 児童会による相互理解を育む取組

12月19日(月)5校時

取組の概要 場所：忠類小学校体育館

【ねらい】

全校児童と全教職員が自己紹介カードを書き、全校集会で伝え合うことを通して、お互いを理解し合うことの大切さや、思いやりの心の育成を図る。

【概要】

児童会代表委員会が中心となり、自己紹介カードを基に、縦割り班で得意なこと等について伝え合った。また、他者のよさを記入した付箋を模造紙に集めて貼り、全体で共有した。

【児童の感想】

自分のことを知ってもらい、相手のことも少し分かったことで、今まで以上に仲がよくなった感じがする。



【自己紹介カード作成の様子】



【集会の様子】

成 果 取組後のアンケートでは、「これからは、好きなことを話題にしたり、困っていたら助けてあげたりしたいと思う」などの記述があり、相互理解やいじめ根絶に向けた意識の高まりが見られた。

取組の名称 いじめ根絶につなげるブロック集会

12月2日(金) 3~4校時

取組の概要 場所：池田小学校体育館

【ねらい】

低・中・高学年ごとのブロック交流活動を通して、児童の相手を思いやる気持ちの醸成及びいじめは絶対に許さない態度の育成を図る。

【概要】

小・中・高学年ブロックごとにいじめに係る教員による寸劇を実施し、児童同士が、いじめを未然に防ぐ手立てを話し合った。また、レクリエーション活動を通じ、望ましい人間関係づくりの取組を進めた。

【児童の感想】

普段は同じ学年の友だちと遊ぶ事が多いが、他の学年の人とも仲良くすることの大切さを感じるとともに下級生の気持ちを考え、動くことができた。



【低学年ブロック集会の様子】



【中学年ブロック集会の様子】

成 果 近接学年のブロックによる交流により、日常生活において身近にいる異学年の相手や同学年の友だちを思いやることにつながるとともに、いじめの根絶やいじめの未然防止についての児童の考えを深めることができた。

取組の名称 児童会主体の縦割り班活動の取組

通年

取組の概要 場所：校内各教室・体育館

【ねらい】

全校児童が交流する場を設定することを通し、学級外の居場所をつくったり、高学年が下の学年の児童を温かく見守ったりする態度の育成を図るとともに、悩みを話しやすい人間関係の醸成を図る。

【概要】

児童会役員が中心となり、全校生徒を6グループに分け、班ごとに話し合い、交流を深めるための遊びを考えた。低学年でも楽しめる交流を行うことにより、他学年であっても全校児童が顔見知りや友人となれるよう工夫した。

【児童の感想】

他学年と仲よくでき、先生には伝えにくい悩みなども聞くことができ、嬉しかった。



【縦割り班の話し合いの様子】



【縦割り活動交流の様子】

成 果 年間を通して縦割り活動を継続したことにより、他者の気持ちを考えて行動する児童の姿が増え、いじめの未然防止・早期発見につながる風土が醸成された。

取組の名称 児童会主体の全校レクリエーションの取組

通年

取組の概要 場所：大津小学校体育館

【ねらい】

他学年との交流活動を通して、児童同士の相互理解を深め、思いやりの心の涵養及び良好な人間関係の構築を目指す。

【概要】

児童会執行部が全校レクリエーションを定期的に企画し、サッカー大会等を実施した。学年を問わず、全児童が楽しみながら競い合えるよう、各学年の児童を均等に分けてチーム編成をするなどの工夫を行った。

【児童の感想】

- ・他学年と一緒に準備したり、遊んだりできたことが楽しかった。
- ・みんなでボールをつないでゴールできてよかった。



【室内サッカー大会の様子】



【全校レクリエーションの準備の様子】

成 果

取組後の学校評価アンケートにおいて、全校児童が「学校が楽しい」と回答するとともに、学級内で互いに助け合いながら活動する様子が多く見られ、思いやりの心の醸成及び良好な人間関係の構築につながった。

取組の名称 児童会主催「いじめ根絶 異学年交流」

6月14日（火）休み時間

取組の概要 場所：浦幌小学校体育館

【ねらい】

いじめ根絶をテーマとした異学年による話し合いを通して、いじめを生まない良好な人間関係の醸成を図る。

【概要】

児童会が中心となり、異学年混合によるグループをつくり、いじめが起こる原因及び未然防止に向けた取組について話し合った。その後、ドッジボール等のゲーム等を通して、全校児童の交流を深めた。

また、「どさんこ☆子ども十勝地区会議」にて意見交流し、今後の取組の充実につなげた。

【児童の感想】

嫌なことをされたら、相手にやめてほしいことを伝えることが大切だということが分かった。自分も人に嫌なことをしないように気を付けたい。



【交流ドッジボールの様子】



【意見交流する様子】

成 果

異学年の児童同士でいじめについて意見を交わすことにより、「どうすればいじめがなくなるか」についての児童の考えが深まり、良好な人間関係の醸成につながった。

取組の名称 いじめ防止の標語づくりの取組

1月17日(火) 3校時

取組の概要 場所：上浦幌中央小学校体育館

【ねらい】

いじめ防止のための標語づくりの活動を通して、児童同士のつながりを深め、いじめ根絶に向けた意識を高める。

【概要】

全校児童が、いじめ防止をテーマにした標語を1人1作品以上考え、「いじめ撲滅集会」の中で、自分の作品を発表した。児童の作品は、玄関前に掲示したり、学校だよりに掲載したりして、保護者や地域も含めたいじめ防止の取組となるよう、配慮した。

【児童の感想】

全校児童が全員で、標語づくりに取り組むことにより、いじめについて、改めて考えるよい機会になるとともに、みんなの前で発表することで、学校全体が1つになれたような気がした。



【標語発表の様子】

成 果

児童一人一人が、標語を全校児童の前で発表することにより、いじめを自分事として捉え、「いじめはどんなことがあっても絶対に許されない」と考える機会となり、いじめ根絶に向けた意識が高まった。

取組の名称 思いやりの気持ちを伝え合う「雪だるま集会」の取組

1月25日(水) 休み時間

取組の概要 場所：本別中央小学校グラウンド

【ねらい】

学年を越えた交流を行うことを通して、相互理解や思いやりの気持ちを伝え合う態度の育成を図る。

【概要】

児童会が中心となり、「雪だるま集会」を企画した。全校児童を縦割り班で8つに分け、それぞれの班がテーマを決めて雪だるまを作成し、考えを伝え合い、協働して一つの作品を作り上げることで、思いやりの心を持ち、相互理解を図ろうとする態度の育成を目指す。

【児童の感想】

- 内容を考えている時に、一緒に考えた人たちと仲よくなれた。児童全員に楽しんでもらえるような企画ができて良かった。
- 時間が少し短かったが、学年ごとではなく、全校児童みんなで行えたことがよかった。



【雪だるま集会の様子】

成 果

全校児童が仲よくすることのよさを実感させることができ、自分の考えや意見を相手に伝えながら、相手の気持ちを考え、謙虚な心で相手の意見を受け入れる姿が見られ、思いやりの心や相互理解を図ろうとする態度が育まれ、いじめを生まない風土の醸成につながった。

取組の名称 児童会主体の「なかよし週間」の取組

10月24日(月)～11月4日(金)

取組の概要 場所：勇足小学校各教室

【ねらい】

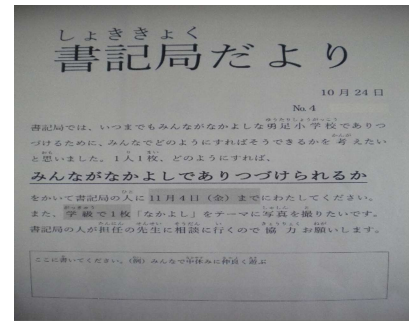
「みんなが仲よしの学校であり続けるために、みんなでどのようにすればそうできるか」を児童が主体的に考えることを通して、いじめを生まない態度の育成を図る。

【概要】

児童会書記局が主体になり、「なかよし週間」を設定し、全校児童から「なかよし」をテーマにメッセージを募集した。さらに、各学級で1枚同テーマの写真を撮り、書記局で成果物としてポスターにまとめ、児童玄関に掲示し、共有した。

【児童の感想】

みんながテーマのことを真剣に考えてくれたことでよい取組になった。「なかよし」について全校児童で一緒に取り組めることをとても嬉しく思った。



【なかよし週間の提案文書】



【「なかよし週間」の成果物】

成 果 メッセージには、「みんなで仲よく優しくする」「悪口を言わない」「昼休みにみんなで遊ぶ」「みんなで教え合う」「お互いのことをもっと知る」などの記述があり、いじめの未然防止に対する意識の高まりが見られた。

取組の名称 縦割り班活動及び全校遊び集会の取組

通年

取組の概要 場所：仙美里小学校体育館

【ねらい】

児童会や高学年児童が中心となって異学年で交流する活動を通して、人間関係を深め、相手の立場を理解し関わることで、いじめのない関係づくりを推進する。

【概要】

1学期より、全校児童 26 人が8つの縦割りを組織し、清掃当番活動や、環境整備作業等の活動に取り組んだ。高学年では他学年への思いやりやリーダーシップを育むこと、低学年は、学校の一員としての帰属意識や連帯感を育むことを目標に、上級生の姿を見ながら友だちや下級生への接し方を学んだ。

【児童の感想】

仲よく、協力して仕事をする事ができた。



【全校遊び活動の様子】



【縦割り班活動の様子】

成 果 同学年においては、幼児期から人間関係が固定しているが、縦割り班で活動を行うことにより、人間関係が深まるとともに、高学年には下学年の児童を思いやる優しい気持ちが育ってきた。

取組の名称 児童会主体の「じゃんけんあいさつ運動」の取組

通年

取組の概要 場所：足寄小学校玄関前

【ねらい】

児童会が主体となった「あいさつ運動」による異学年の交流を通して、学校全体で挨拶のできる学校づくり・いじめのない学校づくりを目指す。

【概要】

児童会が中心となり、朝の「あいさつ運動」を児童玄関前で行った。異学年とじゃんけんをしながら挨拶をすることにより、異学年とコミュニケーションを図り、人間関係が広がるよう工夫した。

【児童の感想】

初めて話した上級生だったが、とても優しい人で、じゃんけんをしながら挨拶をして、楽しかった。



【じゃんけんあいさつ運動の様子】

成 果 今年度の学校重点目標に係る「足寄小学校あいうえお」における「あ あいさつ「え」笑顔「お」思いやりを意識した取組になった。児童会による挨拶を通じた異学年交流により、児童の人間関係が広がり、「いじめをなくすために」という意識の高まりが見られた。

取組の名称 シャベリ場「いじめをなくそう」の取組

12月15日（木）始業前の時間

取組の概要 場所：大誉地小学校音楽室

【ねらい】

児童が主体的にいじめについて話し合うことを通して、いじめについての理解を深め、いじめを許さない意識を高める。

【概要】

自らの経験をもとに話し合う場「シャベリ場」において、全校児童を4名ほどの異学年グループに分け、全校児童でいじめをなくすことをテーマに話し合った。高学年を中心に、友達からされて嫌だったことやいじめについてどう考えるかなどについて話し合い、グループで話し合われたことを全体で共有した。

【児童の感想】

いじめは絶対いけないことだと分かっているけど、気付かないうちに、相手を嫌な気持ちにさせてしまうこともあるので、相手の気持ちを想像しながら、友達と関わっていくことが大切だと感じた。



【シャベリ場の様子】

成 果 異学年との話し合いを通して、自らの生活を振り返り、いじめについて深く考える様子が見られた。相手の気持ちを想像して生活し、思いやりをもって友達と接することの重要性を再確認し、いじめの未然防止を図ることができた。